「出題の意図」

選抜区分	２０２４年度　（選抜区分：学校推薦型選抜） 外国語学部　国際関係学科　（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	**１．出題の背景・求める能力** 【出題の背景】 学校推薦型選抜の小論文は、英文の資料とそれに関連する和文の資料２，３の三点の課題文と二問の問いにより構成している。資料１は Tomoko Otake, "Japanese Researcher Pushes the Boundaries of Lab-Grown 'Real' Meat," *The Japan Times*, (February 2, 2023)、資料２は「斎藤幸平の分岐点ニッポン：資本主義の先へ　未来の『切り札』？ 培養肉って食のかたちをどう変えるか」『毎日新聞』（2021 年 12 月 5 日）、資料３は「イタリア政府、培養肉を禁止する法案を支持：食文化の保護が理由」『BBC ニュース』ウェブ版（2023 年 3 月 30 日）から、それぞれ一部を抜粋・改編して出題した。 いずれも、昨今、話題となっている培養肉（動物の細胞を体外で組織培養することによって作られる肉）についての論説、ニュース記事であり、培養肉の開発・普及が人間や環境、社会にもたらすさまざまな影響や問題点（課題）を読み取れるか、および、それに対する受験生の考えを問うた。 【求める能力】 問１では、英文で書かれた資料１を読んで、培養肉とは何かについて説明したうえで、それが今日の畜産のどういった問題点を克服する可能性を秘めているかを問うた。資料全体の要約ではなく、文章の展開を理解し、解答に必要な部分をピックアップして噛み砕いて解釈する必要がある。また、字数制限がある中で説明する日本語能力および文章表現力も試している。 問２では、今日、既に開始されている培養肉の開発について、どのような課題があるのかを三点の資料すべてに基づいて指摘したうえで、培養肉の開発や普及を今後さらに進めるべきかどうか、受験生個人の考えを問うた。英語、日本語の資料を正しく読めているかどうか、そのうえで受験生自身がどう考えるか、正しい日本語で論理的に述べさせるものである。読解力・思考力・論理的な文章表現力を試す狙いがある。

２．解説（解法）

問１は、培養肉の定義づけおよび培養肉の利点を問うものである。史料冒頭の培養肉とは何かを説明した部分、および１頁目の下から５行目以降の 4 つの段落で述べられている「畜産業の抱える問題への解決策として近年の代替肉への関心が高まっている理由」を述べた部分をまとめることで解答できる。

内容のキーとなる単語が読めておらず、カタカナ表記をしたものの前後の文章から意味を分かっていないと思われる答案や、関連する日本語の知識に引き付けてそれらしい文章を書いているが、内容に矛盾があったり、本文にはないことを書いたりしている答案が散見された。また、畜産の課題への対応について問うているのに、培養肉の開発・普及課題に重点を置くなど、問題文を正確に読み取れていない答案が多かった。

問２を細分化すると、①培養肉の抱える問題とされている点を取り上げ、②それでも培養肉の開発や普及を進めたほうがよいのか、あるいはこれらの問題点があるので開発や普及を進めない方がよいのか、受験生自身の意見とその理由を述べるよう求める問いとなる。出題者としては、問１を解答する際に培養肉のメリットを答えているので、問２の①に解答することで培養肉のメリットとデメリットの両方を理解し、そのうえで問２の②を解答するという流れを想定していたのだが、できている答案は少なかった。問１の解答が十分にできていないということも理由としてあるであろう。

①については、問題点を挙げるというより単に各資料を要約、あるいは読解できた部分を抜き書きするにとどまる答案が目立った。また、②については、①で述べたことを踏まえずに飛躍した形で単に自分の意見を述べている論理的な文章作成力に欠けた答案が目立った。英文である資料１だけでなく、和文である資料２，資料３の読解も不十分と思われる答案が多く、また、課題＝デメリット、問題点であることを理解していないと思われる答案も少なからずあった。受験生には、英語のみならず、日本語読解と作文力を磨いてほしい。